

令和 7 年度 1 学年

== 専門教科 ==

海洋技術科

教科	水産	科目	海洋生物	単位数	2	学年	1	学科	海洋技術科
使用教科書	海洋生物（海文堂）			副教材	なし	対応資格	なし		

1 目標

水産の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、海洋生物を水産業や海洋関連産業において活用するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 知識及び技術	(2) 思考力、判断力、表現力等	(3) 学びに向かう力、人間性等
海洋生物について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	海洋生物を取り巻く課題を発見し、海洋生物に関わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	水産資源の管理や有効利用を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
海洋生物について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	海洋生物を取り巻く課題を発見し、海洋生物に関わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	水産資源の管理や有効利用を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1章 海洋生物のあらまし 第1節 海洋生物の概要 第2節 海洋生物と人との関わり	海洋生物に関する基礎的な内容について理解している。	海洋生物を取り巻く課題を発見し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	海洋生物について自ら学び、水産資源の管理や有効利用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
第2章 海洋動物 第1節 海洋動物の生活 第2節 主な海洋動物	海洋動物の分類、形態、生理、生態及び海洋環境との関係について理解している。	海洋動物の分類、形態、生理、生態及び海洋環境との関係に関する課題を発見し、地球環境や人間生活に着目して合理的かつ創造的に解決しようとしている。	海洋動物の分類、形態、生理、生態及び海洋環境との関係について自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
第3章 海洋植物 第1節 海洋植物の生活 第2節 主な海洋植物	海洋植物の分類、形態、生理、生態及び海洋環境との関係について理解している。	海洋植物の分類、形態、生理、生態及び海洋環境との関係に関する課題を発見し、地球環境や人間生活に着目して合理的かつ創造的に解決しようとしている。	海洋植物の分類、形態、生理、生態及び海洋環境との関係について自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

第4章 プラクトン 第1節 プラクトンの生活 第2節 主なプラクトン	プラクトンの分類、形態、生理、生態及び海洋環境との関係について理解している。	プラクトンの分類、形態、生理、生態及び海洋環境との関係に関する課題を発見し、地球環境や人間生活に着目して合理的かつ創造的に解決しようとしている。	プラクトンの分類、形態、生理、生態及び海洋環境との関係について自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
第5章 水産資源管理 第1節 水産資源の特徴 第2節 資源量の推定 第3節 資源管理の方法 第4節 未利用資源 第5節 種の保全	水産資源管理について理解し、関連する技術を身に付けている。	水産資源管理に関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	水産資源管理について自ら学び、持続可能な水産業や海洋関連産業の振興に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
第6章 海洋生物実験 第1節 海洋動物実験 第2節 海洋植物実験 第3節 プラクトン実験	海洋動植物及びプラクトンの分類、形態、生理、生態及び海洋環境との関係について関連する技術を身に付けている。	海洋動植物及びプラクトンの分類、形態、生理、生態及び海洋環境との関係に関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	海洋動植物及びプラクトンの分類、形態、生理、生態及び海洋環境との関係について自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技術】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについて abc で評価する。（評価基準は単元ごとに設定）

この結果を数値化することで、各考查後に観点別の総括を ABC で行う。後期期末考查後には、それぞれの考查ごとに総括した観点別の評価（ABC）を1年間の観点別の評価（ABC）に総括する。

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考查	○	○	
観察・実験	○		
小テスト	○		
発表・話し合い		○	○
ノート・レポート		○	○
作品制作		○	
発言・行動観察			○
自己評価・相互評価			○

5 担当教員から

教室での座学を行う。時間厳守、正しい服装・態度で参加し、教科書・実習ノート・実習着等、忘れ物の無いよう注意すること。

教科	水産	科目	水産海洋基礎	単位数	4	学年	1	学科	海洋技術科
使用教科書	水産海洋基礎（海文堂）			副教材	なし	対応資格	水産海洋技術検定		

1 目標

水産の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、水産業や海洋関連産業において必要となる基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 知識及び技術	(2) 思考力、判断力、表現力等	(3) 学びに向かう力、人間性等
水産業や海洋関連産業の国民生活における社会的意義や役割などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	水産業や海洋関連産業全体を広い視野で捉え課題を発見し、水産業や海洋関連産業に関わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	持続可能な水産業や海洋関連産業の構築を目指して自ら学び、地域の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
水産業や海洋関連産業の国民生活における社会的意義や役割などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	水産業や海洋関連産業全体を広い視野で捉え課題を発見し、水産業や海洋関連産業に関わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	持続可能な水産業や海洋関連産業の構築を目指して自ら学び、地域の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1章 海のあらまし 第1節 日本の海、世界の海 第2節 海と食生活・文化・社会 第3節 海と環境 第4節 海と生物	海と人間生活の関わりについて基礎的な内容を理解している。	海と人間生活における課題を発見し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	海と人間生活の関わりについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
第2章 水産業と海洋関連産業のあらまし 第1節 船と暮らし 第2節 とる漁業・つくり育てる漁業と資源管理 第3節 水産物の流通と加工 第4節 我が国の水産業と海洋関連産業	我が国や地域の水産業と海洋関連産業の概要、意義及び役割を、必要な知識や技術などの学習内容と関連付けて理解している。	我が国や地域の水産業と海洋関連産業における課題を発見し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	海、水産物及び船を活用した持続可能で発展的な水産業や海洋関連産業を実現するために、探究学習などを通し自ら学び、様々な課題解決に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
第3章 基礎実習 第1節 水産・海洋生物の採集 第2節 水産・海洋生物の飼育 第3節 水産物の加工 第4節 海洋実習	水産業や海洋関連産業で必要な、基礎的な技術を習得している。	海上での安全確保のための課題を発見し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	海上を中心とする集団行動を通して自ら学び主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

水産海洋基礎は2単位を座学、2単位を実習で扱う。

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技術】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについて abc で評価する。（評価基準は単元ごとに設定）

この結果を数値化することで、各考查後に観点別の総括を ABC で行う。後期期末考查後には、それぞれの考查ごとに総括した観点別の評価（ABC）を1年間の観点別の評価（ABC）に総括する。

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

（実習）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考查			
観察・実験	○		○
小テスト	○		○
発表・話し合い		○	
ノート・レポート	○		
作品制作		○	
発言・行動観察			○
自己評価・相互評価			○

（座学）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考查	○	○	
小テスト	○		○
発表・話し合い		○	○
ノート・課題	○		○
発言・行動観察		○	○

5 担当教員から

教室での座学と、実習場や海にて基礎実習を行う。時間厳守、正しい服装・態度で参加し、教科書・実習ノート・実習着等、忘れ物の無いよう注意すること。

教科	水産	科目	海洋情報技術	単位数	2	学年	1	学科	海洋技術科
使用教科書	海洋情報技術 (海文堂)		副教材	全商ビジネス文書実務検定 模擬試験問題集			対応資格	全商ビジネス文書実務検定	

1 目標

水産の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、水産業や海洋関連産業において情報技術を活用するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 知識及び技術	(2) 思考力、判断力、表現力等	(3) 学びに向かう力、人間性等
水産業や海洋における情報技術について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	水産や海洋における情報技術に関する課題を発見し、水産業や海洋関連産業に関わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	水産や海洋における情報技術の主体的な活用を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
水産業や海洋における情報技術について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	水産や海洋における情報技術に関する課題を発見し、水産業や海洋関連産業に関わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	水産や海洋における情報技術の主体的な活用を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1章 水産や海洋における情報技術 第1節 様々な情報技術 第2節 情報のセキュリティと情報モラル	水産や海洋における情報の役割や情報化の進展に伴う諸問題を理解している。	情報社会における課題を発見し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	情報社会について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
第2章 水産や海洋における情報コミュニケーションと情報デザイン 第1節 情報メディア 第2節 情報のデジタル化と情報処理	情報社会における多様なコミュニケーションを実現するための情報メディアの特性を理解している。	情報のデジタル化と情報処理の課題を発見し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	情報コミュニケーションについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
第3章 コンピュータとプログラミング 第1節 情報の表現方法 第2節 アプリケーションソフトウェアの使用法 第3節 オペレーティングシステム	コンピュータで情報が処理される仕組みを理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	問題を発見・解決するために必要なモデル化とシミュレーションの方法について課題を発見し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	コンピュータで情報が処理される仕組みをモデル化してシミュレーションやプログラムの活用について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

第4節 プログラミング			
第4章 情報通信ネットワークとデータの利用	情報通信ネットワークを理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	問題を発見・解決するために必要な情報通信ネットワークの活用方法についての課題を発見し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	情報通信ネットワークにおけるデータの情報検索や情報共有と問題解決について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
第1節 情報通信ネットワークの概要			
第2節 情報通信ネットワークの活用			
第5章 水産や海洋における情報技術の応用	水産や海洋の各分野における情報技術の応用を理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	水産や海洋の各分野の情報技術の活用方法について課題を発見し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	水産や海洋の各分野の情報技術の問題解決について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
第1節 海洋の情報システム			
第2節 船舶運航の情報システム			
第3節 水産の情報システム			

1 年次には第1章から第3章プログラミングまでを扱う。

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技術】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについて abc で評価する。（評価基準は單元ごとに設定）

この結果を数値化することで、各考査後に観点別の総括を ABC で行う。（前期中間、前期期末、後期中間、後期期末の4回）前期期末考査後には、前期中間と前期期末で総括を行い、前期の成績として、後期期末考査後にも同様に後期中間と後期期末で総括を行い、後期成績とする。最終的には前期成績と後期成績を1年間の観点別の評価(ABC)に総括する。

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小テスト	○		
実技	○		○
レポート		○	○
グループワーク		○	
発言・行動観察			○
自己評価・相互評価			○

5 担当教員から

【場 所】 水産情報処理教室

【留意点】 共通したテーマは～メリハリが大事～

①基本的に PC、端末を用いた操作は指示のある時のみとします。

※情報機器はそれぞれ高価なもので、学校全体で共有するものもあります。キーボードを叩くように打つなど、使用方法に問題がある場合は厳しく指導することがあります。

②定期考査は実施しません。

③ソフトウェアの活用の成果として全商ビジネス文書実務検定の合格を目指す。

④制限時間、提出期限を厳守してください。

⑤設定される場面は、 ア. 説明等を聴く時間

イ. 個人で作業をする時間

ウ. 教員に質問が可能な時間

エ. 生徒間で教え合うことが可能な時間

に分けられます。これらについてメリハリをつけ臨んでください。

⑥自由な発想と勝手な解釈は異なります。

教科	水産	科目	航海・計器	単位数	2	学年	1	学科	海洋技術科
使用教科書	航海・計器（海文堂）			副教材	なし		対応資格	なし	

1 目標

水産の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、漁船等の船舶を航行させるために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 知識及び技術	(2) 思考力、判断力、表現力等	(3) 学びに向かう力、人間性等
船舶の安全かつ適切な航海について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	船舶の安全かつ適切な航海に関する課題を発見し、船舶の運航や漁業生産に従事する者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	船舶の安全かつ適切な航海や漁業生産への活用を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
船舶の安全かつ適切な航海について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	船舶の安全かつ適切な航海に関する課題を発見し、船舶の運航や漁業生産に従事する者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	船舶の安全かつ適切な航海や漁業生産への活用を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1章 航海の概要 第1節 航海の意義と沿革 第2節 航海と航法 第3節 航海と計算	航海と航法・計算の基本的な内容について理解している。	航法に関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	航海と航法について自ら学び、安全な航海を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
第2章 航海に関する情報 第1節 航海と情報 第2節 海図と航路標識 第3節 海流や潮汐の概要	航海に関する情報について理解している。	航海に必要な情報と活用法に関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	航海で利用する情報について自ら学び、実際の漁業生産や安全な航海に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
第3章 計器と航法 第1節 基本航海計器 第2節 地文航法 第3節 電波航法 第4節 天文航法	航海計器と各種航法について理解するとともに、関連する基本的な技術を身に付けている。	航海計器と各種航法に関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	航海計器と各種航法について自ら学び、実際の漁業生産や安全な航海を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

第4章 航海計画	航海計画について理解し、関連する技術を身に付けている。	航海計画についての課題を発見し、安全かつ適切な船舶の運航に着目して合理的かつ創造的に解決しようとしている。	航海計画について自ら学び、安全かつ適切な船舶の運航に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
第5章 海上交通関係法規 第1節 海上衝突予防法 第2節 海上交通安全法 第3節 港則法	海上交通関係法規に関する基本的な内容について理解している。	海上交通関係法規に関する課題を発見し、安全な航海に必要な法規に着目して合理的かつ創造的に解決しようとしている。	海上交通関係法規について自ら学び、安全な航海を目指して主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
第6章 海事实務英語	航海当直や外地入港などの航海業務に必要な海事实務英語及び英会話について理解している。	海事实務英語に関する課題を発見し、安全な航海に必要な情報や通報及び船員としてのコミュニケーションを通して合理的かつ創造的に解決しようとしている。	海事实務英語について自ら学び、実際の漁業生産や安全な航海に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

1年次は、第1章航海の概要から第2章第3節海流や潮汐の概要まで扱う。

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技術】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについてabcで評価する。（評価基準は単元ごとに設定）

この結果を数値化することで、各考查後に観点別の総括をABCで行う。後期期末考查後には、それぞれの考查ごとに総括した観点別の評価（ABC）を1年間の観点別の評価（ABC）に総括する。

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考查	○	○	
観察・実験			
小テスト	○		○
発表・話し合い		○	○
ノート・レポート	○	○	○
作品制作			
発言・行動観察	○		○
自己評価・相互評価	○	○	○

5 担当教員から

教室での座学を行う。時間厳守、正しい服装・態度で参加し、教科書・実習ノート・実習着等、忘れ物の無いよう注意すること。